



令和6年4月19日
稲城市立稲城第三中学校
養護教諭 三友 真梨

新年度が始まって、約2週間が経ちました。皆さん、新しい環境には慣れましたか？新しい環境は、無意識に疲れがたまるものです。おいしいものを食べたり、よく寝たり、誰かに相談したり…何かリフレッシュできる好きなことを見つけ、日々の疲れを癒していきましょう。

内科検診について

日時 1年生：4/22（月） 2年生：5/23（木） 3年生：6/10（月）

いずれも13:25～（A組から順に始めます）

服装 体育着登校（ジャージは教室に置いてきてください）

校医 香川 昇 先生（稲城癒しの森内科クリニック）



【検診の方法】

①半袖、短パンで廊下に並んで順番を待ちます。

ズボンから、上のシャツや下着は出しておきます（すぐにめくれるように）

①校医さんの前に座ります。

②校医さんが軽く下まぶたを下げて貧血があるかどうか診ます。

③校医さんが首を触り、リンパ腺の腫れがないかどうか診ます。

④聴診器で胸の音を聞きます。

⑤最後にその場で立ち上がって、後ろを向き、お辞儀をして、背骨の様子をみせます。

※検診中の様子は他の人に見られないよう、ついたてがあるので安心してください。

結核について～2週間以上続くせきやたんにご注意！～

提出していただいた「保健調査票」の中に結核について聞かれている項目があります。結核について説明します。

結核は、昔の病気と思われがちですが、今でも世界の死亡原因のトップ10に入る病気です。

日本では、今でも年間1万人以上の方が発症し、2千人近くが死亡している感染症です。初期症状は、せき、たん、微熱などかぜに似ています。

このような症状が2週間以上続く場合は、一度検査をしてみるようにしましょう。半年ほど薬を飲む必要がありますが、結核はきちんと薬を服用すれば治る病気ですので、早期発見、早期治療が重要です。

学校では、問診票を基に内科検診で胸の音を聴いていただきます。

その上で必要な人には精密検査のご案内をお渡ししますので、ご了承ください。

**今年度お世話になる学校医さん、学校歯科医さん、
学校薬剤師の先生方です。**

	医療機関名		電話番号	住所
学校医	内科	香川 昇先生（稲城癒しの森内科クリニック）	379-8880	大丸936-1
	眼科	篠塚 康英先生（しのづか眼科）	379-3149	矢野口380-2-103
	耳鼻科	木村 奈津子先生（栄耳鼻咽喉科クリニック）	370-7363	百村1624-1
	歯科	前川 紀雄先生（ミューズ歯科稲城長沼院）	401-7180	東長沼1212 1階
	薬剤師	小藺 佳韻先生（上原薬局）	378-1360	東長沼532ジョイフル1階



■学校における感染症について

学校において予防すべき感染症は学校保健安全法施行規則によって、第一種から第三種に分けられています。以下の感染症に感染した際には、「登校許可証」のご提出をお願いしております。用紙は、学校のHPにある「学校からのお知らせ」→「各種申請書」からダウンロードができます。学校まで取りにきていただくことも可能です。

登校許可証を提出していただいてから、出席停止の扱いとしておりますので、お手数ですが提出のご協力をお願い致します。

新型コロナウイルス感染症・インフルエンザに罹患した時

→ 医師の証明は必要ありません。保護者の方が用紙に、ご記入ください。

その他の感染症に罹患した時

→ 医師の証明が必要になります。用紙をダウンロードの上、医療機関にて証明をいただいてから、学校にご提出ください。

《感染症の種類と出席停止》

	疾病名	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、SARS、MERS、特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ、	治癒するまで
第二種	インフルエンザ（※別用紙でご提出ください。）	発症した後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで
	新型コロナウイルス感染症（※別用紙でご提出ください。）	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹（はしか）	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹（三日ばしか）	発疹が消失するまで
	水痘（みずぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	医師が感染の恐れがないと認めるまで
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、溶連菌感染症、ウイルス性肝炎（A型）、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症、流行性嘔吐下痢症、その他医師が感染すると認めたもの	医師が感染の恐れがないと認めるまで

